

つぎは

第42号

●発行責任者 〒062-0051 札幌市豊平区月寒東1条3丁目
北海道札幌月寒高等学校内 北海道札幌月寒高等学校同窓会
TEL (011) 851-3111・FAX (011) 851-3112 <http://www.tsukisappu.com>

●印刷所 小南印刷 横

題字：中川清風先生

現住所・幹事等の変更連絡について

現住所・幹事等に変更があった場合は札幌月寒高校同窓会事務局宛ご連絡ください。

さて、コロナの関係で大人数の会合には大変な制約が課せられたが、別の理由で同窓会活動、とりわけこうした大勢が一堂に会する企画は難しくなっている。その要因はい

て、部活動部室設置支援プロジェクトで計画の半分ではあるが、部室5基を設置することができました。これ後も大きな同窓会の活動でした。今後とも同窓会として何ができるかを考えて行きたいと思っている。

同窓会は母校を応援することも柱としている。母校70周年の折に創設された「ひまわり基金」は、志を持つて挑戦する現役生に資金的援助をというものが、昨年度は2グループの挑戦があった。大阪万博の現地検

分、台湾への研修と貴重な経験となったようだ。また、全国大会に進んだ部活にもささやかであるが支援も行っている。さらに今年度は、「外

部活動部室設置支援プロジェクト」で計画の半分ではあるが、部室5基を設置することができました。これ後も大きな同窓会の活動でした。今後とも同窓会として何ができるかを考えて行きたいと思っている。

さて、昨年はいくつかの同窓会の集まりに出席した。ある会では、90歳半ばの大先輩のスピーチにはっとした。その大先輩は、年齢が高くなればなるほどかつてのような出かける機会は少なくなる。今や唯一となつてしまったこの会に出席すること

とが本当に楽しみで、同窓会の大親会は大きな取組で昨年度には22000人ほどの参加。同窓の絆を再確認できたようだ。しかし世界は混乱、なにかと難儀な中、遅しく頑張る同窓の姿を見たり聞いたりすること



難儀な時代だからこそ

同窓会会長 開発好博

21期生・昭和48年卒

いろいろある。たとえば個人情報保護法の関係で同窓会名簿が平成19年度版を最後に刊行されず、63期以降情報卒業生の氏名だけ。当番幹事期になつてもなかなか連絡が取れないのが実情。そのため今後卒業生は、HP等で各自からの申請された登録データだけである。また、同窓会に対する意識の問題。若い時には、関心が薄く、ある程度の年齢になつては、日々忙しい時期に重なってくる。そして、一段落したころには、同窓会の案内や情報も来なくなる。ちなみに、大親会の当番幹事期の最高齢は58歳で、その後選任の時、またそれ以後に、当番幹事の時、整備した名簿等を使って「同期会」ができるようにという意図があります。

その他、「同窓の絆」という言葉が世間一般に死語になりつつある？しかし、本当にこのまま個々の関係性が疎になり、地域のコミュニティもなくなつていく社会が望ましい方向だろうか？多感な高校時代を共有した者が、どこかで繋がっていると

いう関係性を大事にしたいものだ。同窓生は、今年卒業の第73期326人を同窓会に迎えると28511人となり、様々な分野で活躍している。こういう時代だからこそ同窓の絆を大事にしていきたい。

最後に、日頃お世話になっている三村素道校長様、萩田副校長様、石田、大野両教頭様、武田明事務局長様はじめ諸先生方のご理解とご協力で同窓会活動が継続できたことにお礼申しあげ、母校がますます今後とも発展し同窓会員の皆様のご健勝とご多幸も祈念申し上げ挨拶といたします。



感謝

校長 三村素道

同窓会の皆様には、日頃から本校の教育活動に対し多大なるご支援をいただいておりますことに、この場をお借りしまして心よりお礼を申し上げます。昨年9月に実施された大懇親会には1220名以上の同窓生が参加され、我々管理職一同も参加させていただきました。開発会長をはじめ、当番期の皆様や関係各位による入念な準備と運営に感謝申し上げるところです。同窓生同士の絆を再確認する貴重な機会であり、参加された皆様が久しぶりの再会を楽しまれた様子でした。その中でお時間をいただき、本校生徒からも協力を呼びかけさせていただきましたが、「北海道立学校ふるさと応援事業」を活用した「外部活動部室設置支援プロジェクト」を昨年よりスタートいたしました。皆様のご支援とご協力により無事5棟の部室を年内に設置することができました。残り5棟の設置に向けて、これからも活動を続けてまいります。また、「月寒ひまわり基金」により、台湾Study Tourに本校生徒6名が参加し、EXPO2025大阪・関西万博における「世界学生起業家アワード」を3名が見学することができました。様々な場面におきまして同窓会の皆さまには手厚いご支援をいただいておりますことに改めまして心より感謝申し上げます。

世の中に目を移しますと、社会構造や生活環境が大きく、急速に変化していると感じられている方も多いでしょう。グローバル化の進展やAI・IoTなどの絶え間ない技術革新、気候変動や感染症の流行、自然災害の多発、世界各地で見られる様々な分断、国内における少子高齢

化や人口減少などから「VUCA」「BANI」という言葉に象徴される将来の予測が困難な混沌とした時代になつてきています。「人生100年時代」とも言われていますが、寿命が延びている一方で、世の中は変化するスピードがどんどん速くなり、数年で簡単に「普通」が変わつてしまふ時代です。複数のキャリアを並行する「パラレルキャリア」や、人生において2回、3回とフィールドを変えながら働く「キャリアチェンジ」や「キャリアアップ」というような生き方が当たり前になるとも言われています。テクノロジーの進化や労働市場の変化によって求められるスキルや知識が変わつていき、社会人になつても「学び直し」「リスキリング」は必須とされています。同窓生の皆様も日々実感しているところではないでしょうか。このような時代だからこそ、俯瞰的に世界を捉え、自分ごととして向き合いながら、柔軟に適応力をもつて未来を切り拓いていく姿勢や多様な他者対話し協働していく姿勢が大切になっていきます。本校では探究学習プロジェクトを通して、各教科で身につけた知識を思考のベースに、正解のない問いに対して自ら課題を設定し、他者と協働しながら解決を図ることで「生きる力」を養うことを目指しているところです。私ごとですが、この三月をもつて役職定年となります。三年間というお付き合いでしたが、本当にありがとうございました。これからも「月高」「月定」の生徒の活躍を応援してまいります。同窓会の皆様におかれましては、引き続き本校の教育活動をご支援くださいますよう、よろしくお願いいたします。



再会の魅力

竹内 有美

34期生・昭和61年卒

元々私は、「同窓会」というものに魅力を感じておらず、その存在は頭の中にありませんでした。高校時代はバレエ部に所属していたので、卒業後はバレエ部で年に一度体育館に集合してゲームをする、というのが恒例になっていました(仕事が忙しくなり、途中から参加できなくなりましたが)。高校に集まるのはそれくらいでした。

月寒高校の同窓会へも一度も参加したことがありませんでしたが、3年前から参加するようになりました。そのきっかけは、同窓会顧問の小竹知子札幌市議会議員からお声がけいただいたことでした。参加してみると、元々教員だった私にとっては以前お世話になった教員の先輩や元同僚、昔の勤務校の卒業生の保護者さんなどにも会うことができた嬉しいひとときでした。「同窓だったんだ」と思うと親近感が今まで以上に湧いてきました。仕事をしていた時は誰がどこの出身学校かは全く気にしていなかったのです。

今年度は私の期(34期)が当番幹事。ある日、同窓

会事務局から届いたお手紙は当番幹事のお誘い。手帳を見ると、偶然にも幹事会の日には仕事が重なっておらず、これは神様からの「やりなさい」というメッセージだと解釈し、幹事となりました。しかし、1回目の会議の日。34期の参加は私一人。どうなることかと思っていたら、役員の方の繋がりです34期の一人に声をかけてくれ、私も薄い繋がりの中で声をかけ、結局当番幹事は7名集まることに。そのうち3人は仕事の関係で昨年同期だと知り、卒業アルバムを見て驚いていたところでした。残りの人も、幹事会で会った夜に卒業アルバムを見返し、記憶を呼び戻そうとするのですがどうも思い出せません。面影は何となくあるけれど、性格や行動までは思い出せません。部活一筋だった私は、人にあまり興味がなかったの

です。でも、それはそれで良くて、40年ぶりに会って、どんな仕事をしているのかやどんな風に暮らしているのかなど話す中で、高校時代にはわからなかったその人それぞれの魅力を感じました。幹事会で一緒に仕事をする中でも、気遣いができる、仕事が早い、相手がやりやすいようにするなど「人として素敵だな」と考える方々と一緒に幹事の仕事をできて良かったと思っています。これも高校時代はわからなかったことでした。

ずっと繋がりが続けるのもよし、しばらくぶりに会うのもよし。

「月寒高校」という繋がりをこれから大切にしていきたいと思います。



18歳のあなたたちに伝えたい事

矢口 みのり

(旧姓:水上)

34期生・昭和61年卒

皆様、ご卒業おめでとうございます。新しい学舎や社会に巣立っていくことは誠に喜ばしい限りです。私も40年前という大昔に月寒高校を卒業した一人です。25歳の娘がいます。

世の人は若者に、夢を追えとか簡単な道と難しい道があるならば難しい道を選べとか、自分ができなかったことを託そうとすることでしょう。

しかし、それはその人が選べなかった・選べなかった修羅の道なのです(もしくは稀に・たまたま程よい苦勞でうまくいったのかも)。うまくいけば大きく花が咲くかもしれない。けれど、うまくいかなければ、何も手に残らないどころか下手するとマイナスかもしれません。安泰の道を選んだものほど、選べなかった道がなぜか必ず花開く前提なのです。そして花が開かずともなんの責任も取ってはいけません。

誰もが「大谷翔平くんになれるのでしょうか?」答えは「否」ではないのでしょうか。夢が成功するには努力や才能はもちろん、人の意見を受け

入れつつも自分を確立しているという強さ、そこまで育つ環境も大切です。その上で大きいのは運。時流と合っているという運が必要でしょう。

また、世の人は若者にきれいなことを言うてくることでしょう。皆の役に立ち人様の規範になるような人になりなさいとか。条件だけで結婚相手を探すのは打算的とか。お金がなくても愛があればいいのだとか。損しても人様のお役に立てとか。自分を犠牲にしても家族を支えよとか。地べたを這うような経験をしろとか。

そんなことを全て真に受けて献身的に尽くしても、報いてくれる世の中、相手なのかどうか、それは確かではないのです。ましてや今の世は何をどう転んだか、自分だけが得をすれば良いという人がとても増えました。恐ろしいことです。よく見極める目が必要です。

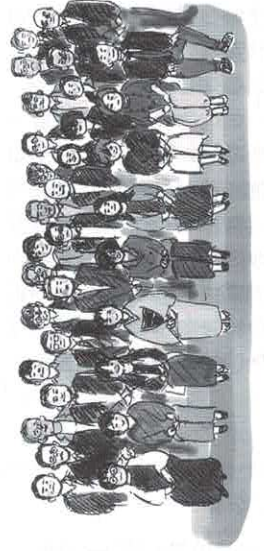
ではそんな世の中で、若者は夢も希望も持たず、今日の自分の食い扶持だけ稼げばそれで良いのでしょうか。そうではないでしょう。そうではないと思いたい。他者へ分け与えることは大

切です。ただ、自分の身を養える余裕があつてこそ、初めて利他の気持ちが芽生えるのではないかと、こゝう私は考えるのです。

「衣食足りて礼節を知る」「フレスコオプリージェ」この二つの言葉を胸に留めてください。

皆さんには、若者らしい夢や理想は持ち続けていただきたい。その前提として、しつかり自分の身を養える仕事につけるよう、まずはよく学ぶことです。机の上の勉強だけではなく、人、自然、書物、どんなものであつても、あなたの目が真実を見ようとするならば、それは学びになるのです。自分の思い込みで決めつけない。何に対してもフラットな目線でよく観察すること。自分が見たいように見るのではなく、相手を、現象を、見下さず、見上げず、ありのままにまずは見ることです。

才があり環境に恵まれそれを発揮して縁を十分に得ることができるなら、よく感謝して得たものを世に還元しましょう。環境に恵まれるというだけでもそれは天の恵み。驕り高ぶらず、自



同窓会～34期のみんな

分の努力だけで手に入れたなどとは間違っても思わず、謙虚に。その上で多くの益があれば、人様のために使いましょ。夢や理想を実現するためにはまず自分が足りていなければダメなのです。

あなた方が40年後に「やり切った、よく頑張った、満足、この先も楽しみ」と思えるのか「あの時あすれば良かった、この先どうしよう」と思うのか、その時にならなければわかりませんが、できれば後悔のない道を選ばれますよう。失敗は若いうちに済ませましょ。

40年後、その選択が正しかったと思えるような判断力を身につけて、賢く生きぬいてほしいと切に願います。



時が経っても

藍 原 満

34期生・昭和61年卒

卒業から40年の歳月が流れ、高校時代の記憶も薄れゆく中、同じ会社の数名の同級生とともに、縁あって、令和7年度に開催される月寒高校第46回同窓会大懇親会で、34期生の幹事を務めることになりました。

令和7年5月、大懇親会開催に向けた幹事会に出席するため、約40年ぶりに母校の門をくぐりました。夕刻、学校に到着し職員玄関へ向かう道すがら、部活動を終えた生徒たちから「こんばんは」と丁寧な挨拶を受けました。挨拶を返しながら、ふと自身の高校時代を振り返ると、外部の方に挨拶などしたことがあったらうかと、当時の自分を少し反省しました。それと同時に、1年生の時の教室や、まだ使われているグラウンドの部室を見て感慨に浸り、懐かしさを覚えながら会議室へと向かいました。

会議室に入ると、最初は誰が同級生なのか戸惑いましたが、会議の冒頭で自己紹介があり、ようやく名前と顔が致しました。すると、普段思いますがまるで昨日のことのように鮮やかに蘇り、誰かが持ってきた卒業アルバムを囲んで思い出

話に花が咲き、会議を忘れるほど大いに盛り上がりました。9月の大懇親会までに、会議は毎月開催され合計7回を数えましたが、その毎日が同窓会のように、非常に楽しい時間でありました。

大懇親会当日は、卒業以来の再会となる方がほとんどでした。お互いに歳を重ね、容姿もずいぶんと変わりましたが、40年の時が経っても、昨日も会ったかのような感覚で、本当に楽しいひとときを過ごすことができました。

私たち34期生は、今回が最後の幹事期になると伺っていますが、同窓会が繋いでくれたこの縁を大切に、同級生の皆さんと2年後に還暦の会でも開催できればと願っています。

同窓会の活動は、今年卒業される皆さんにとっても、まだ身近に感じられない遠い存在かもしれません。しかし、今後10年、20年と時が経っても、皆さんの絆を繋ぐ大切な場となるのが同窓会の活動だと思います。日頃からの参加は難しくても、時間の取れる時にできる範囲で構わないと思いますので、初めて幹事を務めた私が申し上げるのは僥越かもしれませんが、ぜひ同窓会の活動に参加してみてください。



「再会、そして 「月高パワー」の再確認！」

高 橋 修 平

44期生・平成8年卒

いるかのような錯覚さえ覚えました。

特に胸が熱くなったのは、恩師の先生方との再会です。かつての「先生と生徒」という垣根を超えて、一人の人間として温かく言葉を交わし合える喜びは、この歳になつたからこそ味わえる醍醐味だと感じました。

また、同期たちの「今」の話にも大きな刺激をもらいました。地元北海道を守る者、全国、あるいは世界を舞台に飛び回る者。それぞれの場所で泥臭く、しぶとく頑張っている中間の姿は、まさに「月高生」そのもの。彼らと近況を語り合ううちに、自分自身の心のエンジンにもガソリンが満タンに注入されたような、最高の「エネルギーチャージ」の時間となりました。

今回、当番幹事として裏方を務めて痛感したのは、同窓会はただ過去を懐かしむだけの場所ではないということです。ここは、今の自分を確かめ合い、明日からまた一歩踏み出すための「港」のようなコミュニティ

澄み渡る秋晴れとなった令和7年9月27日。母校・札幌月寒高等学校の第46回同窓会大懇親会が開催されました。今年は私たち44期が当番幹事ということで、副実行委員長という大役を仰せつかりましたが、無事に盛況のうちに終えられたことに、まずはホッと胸をなでおろしています。ご協力いただいた全ての皆様、本当にありがとうございました。

会場には、私たちの恩師2名と同期35名が集結しました。受付が始まった途端、あちこちで「おー！」「変わらないな！」「と威勢のいい声が上がリ、会場は一気に熱気に包まれました。卒業から30年あまり。鏡を見ればお互い相応の「深み」が刻まれています（笑）、いざ会話が始めれば一瞬で「あの頃」にタイムスリップです。

泥だらけになってボールを追いかけたサッカー部のグラウンド、一歩も引かなかった球技大会、準備に明け暮れた月高祭……。当時の思い出話は尽きることなく、まるで放課後の教室に

なのだと確信しました。

同窓生の皆さん。人生、いい時ばかりではありません。予期せぬトラブルや壁にぶつかることもあります。そんな時は、あの学び舎で育んだ「自主自立・親和協力」の精神と、この最高の仲間たちの笑顔を思い出してください。その繋がり、きつと背中を押し、次の一歩を軽くしてくれるはずですよ。

この「月高スピリット」を次世代へ、そして未来へと繋いでいくことが、私たち44期の、そして同窓生みんなの役割だと思っています。今回の懇親会でも、また最高に元気な笑顔で再会しましょう！

最後になりますが、開催にあたり並々ならぬご尽力をいただいた歴代幹事の皆様、事務局の皆様、心からの感謝を込めて、私の寄稿とさせていただきます。



第46回同窓会大懇親会を終えて

藤岡 沙織

44期生・平成8年卒

窓の外に広がる景色が鮮やかに色づき始めた去る令和7年9月27日、札幌月寒高等学校同窓会大懇親会が開催されました。私は、第44期当番幹事として、準備の段階から緊張と期待が入り混じる日々を過ごしてまいりましたが、当日の盛況な様子を拝見し、直接労ってくださった皆様の言葉の温かさを感じ、今は心地よい充足感と感謝でいっぱいです。

今回の懇親会には、私たち44期から2名の恩師と35名の同期生が駆けつけてくれました。受付で懐かしい顔を見つけるたびに、一瞬で心が高校時代のあの教室へと引き戻されるような、不思議で温かな感覚を覚えました。30年以上の月日が流れたはずなのに、名前を呼び合えば、そこには変わらない笑顔と、当時のままの空気が流れていました。

「あの時のあの授業、こうだったよね」「部活帰りに食べたあの店の味、覚えてる？」といった思い出話から、それぞれの歩んできた人生の軌跡、そして現在の自分たちの様子まで、話の種は尽きることはありませんでした。

ませんでした。

仕事や家庭、育児や介護など、多忙な日々を駆け抜けてきた同期も少なくありません。それぞれの場所で懸命に、そしてしなやかに人生を紡いできた仲間のその言葉には、深い説得力と勇気を与える力がありました。近況を報告し合い、お互いの奮闘を称え合う時間は、私にとっても今後の人生を歩む上での大きな糧となりました。あつという間の2時間でしたが、その密度は驚くほど濃く、心の奥底に眠っていた「月高生としての誇り」が再び呼び起こされるような、輝かしいひとときでした。

当番幹事として準備に携わって感じたのは、この同窓会という場所が、単なる「再会の場」以上の意味を持っているということでした。それは、世代を超えた卒業生たちが共有する、目に見えない「月高スピリット」を確認し合う場所であり、明日への活力を分かち合う、温かな港のような存在なのだと思えました。

卒業生の皆様。私たちは、月寒高校という場所で、生涯の宝物となる友情と、自

分を律する強さを学びました。社会の荒波に揉まれることもあります。ふと振り返れば、いつも変わらずに迎えてくれる母校と仲間たちがいます。この繋がりがこそが、私たちの人生をより豊かに、より彩り鮮やかにしてくれるものだと思っています。

今回の当番幹事を務めるにあたり、温かく見守り、支えてくださった先輩方、事務局の皆様、この場をお借りして心より感謝申し上げます。また、今回参加できなかった皆様とも、いつかまたどこかでお会いできることを楽しみにしております。

月寒高校の益々の発展と、同窓生の皆様お一人お一人のご多幸を心より祈り申しあげます。



卒業20年を迎えて

壽時 康成

54期生・平成18年卒

平成十八年に本校を卒業してから、気がつけば二十年という歳月が流れました。

先日と同窓会では、久しぶりに多くの懐かしい顔ぶれと再会することができ、当時の記憶が一気によみがえりました。卒業当時には想像もできなかった「三十八歳の自分たち」が、今こうして再び同じ場所に集まっていることに、不思議な感慨を覚えます。

再会した同級生たちは、それぞれの人生を歩みながらも、どこか高校時代の面影を残していて、話し方や笑い声、ふとした表情の中に「あの頃のまま」の姿を見ることができました。家庭を持ち、子育てや仕事に励む人、地元で地域を支える活動をしている人、遠く離れた場所で新しい挑戦をしている人——それぞれの立場は違っても、共に過ごした三年間の絆が、今も確かに心の中に息づいていて感じました。

当時の先生方のことも、今でも鮮明に思い出されます。十代の頃には素直に受け止められなかった言葉も、社会に出て経験を重ねるうちに、その意味の深さ

を実感するようになりしました。学んだ教科の内容以上に、「人としてどう生きるか」「他者とどう向き合うか」という姿勢を教わったことが、今の自分の礎になっていると感じます。改めて、私たちを温かく見守り導いてくださった先生方に、心より感謝申し上げます。

また、この同窓会の開催に向けてご尽力くださった幹事の皆さまに、深くお礼を申し上げます。日程調整や連絡、会場の手配など、多くのご苦労があったことと思います。おかげで、二十年という節目に再び集い、笑顔で語り合う貴重な機会をいただくことができました。心より感謝申し上げます。

社会に出てからの二十年间、それぞれの場所で様々な出来事や変化を経験してきたことでしょう。責任や役割が増える中で、学生時代のように無邪気に語り合う時間は少なくなりました。しかし、今回の同窓会を通して、あの頃の友情や空気が、何も変わらず自分の中に残っていることに気づきました。このつながりこそが、何ものにも代えがたい財産だと思います。



これから先の十年、二十年で、私たちはさらに異なる立場や環境にいるかもしれませんが、それでも、平成十八年にこの学校で共に学び、笑い合った仲間がいるという事実は、これからも変わることのない誇りです。次の節目に、また元気な姿で集まれることを願っています。

最後になりましたが、母校のさらなるご発展と、同窓生の皆さまのご健康、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。



喜寿を祝って第14期卒業・同期会

代表幹事 中川 信治 (7組)

14期生・昭和41年卒

卒業して60年となった14期の仲間、61人が「喜寿(77歳)」を迎えた事を祝って全国各地から集まり、2025年5月15日(木)、札幌市中央区「おたる別邸宴会処」で楽しい時を過ごしました。亡くなられた恩師の方々も天国から同期会の様子を見守ってくれたようです。

まず最初に、これまで同期会の柱として活躍してくれた4組の井筒和幸さんと6組の古内一枝(旧姓・赤坂)さんに感謝したい。この2人が母校の同窓会の会長・副会長として長年にわたって母校のために大活躍していたことから、同期会も続いてきたといえる。

祝宴は参加者全員のスピーチを最優先とし、これまでのスライドや伊藤俊久(5組)さん等の生演奏の余興は一切無しで行った。最初に校歌を唄った瞬間から胸がじんわり熱くなり学生時代にタイムスリップ。挨拶なども短く行い、すぐにスピーチに入る。クラス幹事が時間調整をして道外からの参加者には長めにスピーチをお願いした。とりわけ卒業以来、神奈川県藤

沢市から初めて参加した鈴木隆幸(5組)さんが登壇したときには大きな拍手、本人は感激のあまり涙、仲間から声援が飛んだ。クラスごとに並んで各自の近況報告。話題はそれぞれの健康状態と家族、連れ合いの様子、日頃の生活パターン、残りの人生の抱負等が中心でした。

美味しい料理を食べながら、約3時間が矢のように過ぎ、誰もが満足し盛大に終えた。

最後の同期会としたが、今後も連絡を取り合い、毎年5月中旬に集まる約束をした。

なお今後の参考として私達14期の仲間が親睦を深めた経緯を残しておきたい。

私達は昭和22年(1947年)から昭和24年の第1次第2次世界大戦直後に生ま

れ、文化的・思想的な面で共通している戦後世代として青春時代を過ごしてきた。

私達1966年卒業14期は8クラス、総勢442名(1クラス約55名)である。

人数が多くクラス仲間と両隣のクラス、部活動での仲間との交流しかなく、30歳代の頃は恩師を囲んでのクラス会が中心だった。60歳になった頃に同期の井筒(4組)さんが同窓会長に就任したことで同期会や同窓会に参加する仲間が増え、今日に至っている。同期会を重ねることに本音で話せる仲間の絆がさらに太くなる。まさに生涯の友人である。

「光陰矢の如し」、これからの人生はアツと言う間に過ぎる。誰もが健康管理を最優先にして無理をせずに日々を有意義に過ごし、母

校の発展に寄与しながら、次の人生の節目となる傘寿(80歳)、米寿(88歳)、卒寿(90歳)を同期の仲間と迎える事が目標である。

自由と平和を 目指しつつ
進むわれらの 若人の
ゆくて栄光あれ ああ月高

14期・同期会の経緯(私達の年齢、タイトル開催年、場所、代表幹事名)

48歳・卒業30周年(平成07年、定山溪ホテル、代表・久瀧侑市)
55歳・卒業37周年(平成14年、札幌プリンス、代表・杉谷憲章)
58歳・卒業40周年(平成17年、札幌プリンス、代表・井筒和幸)
68歳・卒業50周年(平成27年、札幌第一ホテル、代表・中川信治)
70歳・古希記念(平成29年、エーデルホルスホフ札幌 代表・小林敏男)
●令和2年から新型コロナウイルスの影響により開催せず
76歳・卒業58周年(令和5年、ジャスマックス、代表・水上繁一)
78歳・喜寿記念(令和7年、おたる別邸宴会処、代表・中川信治)



＝喜寿を祝って＝ 札幌月寒高等学校・第14期卒業同期会クラス幹事

- ★奥左から伊藤静雄(1)、河井賢二(7)、久瀧侑市(5)、濱島和男(2)、村越雅男(5)、水上繁一(6)、澤田 実(8)、桑島則夫(4)、井筒和幸(4)、中川信治(7)、
★手前左から飯原紀代子(3)、小林良子(3)、田中義次(7)、三ツ野悦子(8)、古内一枝(6)、嶋津友子(1)、笹出由紀子(5)、塩見史子(5)、恩師のお名前は左記のクラス写真に明記



1組・青木一成 先生



2組・清水正康 先生



3組・伊藤義彦 先生



4組・小松 茂 先生



5組・山崎 博 先生



6組・横山 誠 先生



7組・本多信夫 先生



8組・中川 清 先生



北海道札幌月寒高等学校 「外部活動部室 設置支援プロジェクト」

※ 道立学校ふるさと応援事業 × 札幌月寒高等学校

想いは未来を動かすチカラ

REBORN 部室



北海道

ふるさと納税からの支援は、
左のQRコードより、
お支払いください。



※ 楽天サイトも
ご利用いただけます。

札幌月寒高等学校外部活動部員一同
(野球、ソフトボール、サッカー、陸上、
ソフトテニス、硬式テニス、アーチェリー)



外部活動部室設置支援プロジェクトの概要は、こちらをご覧ください。➡

【2025.12/31時点での支援金総額 合計4,678,033円(目標700万円まで2,321,967円)】

- ・ 北海道立高校ふるさと応援事業 937,000円 ※ 全道立高校のカテゴリーで、最高金額でした。
- ・ 本校同窓会からの支援金 3,741,033円 (うち寄付金額741,033円)

【月寒丘ひまわり基金】とは…

本基金は、母校設立70周年記念事業として創設されました。

大きなチャレンジをしようとする在校生を支援しようという基金です。

我々大人の心を揺さぶるような熱い志と行動力と、チャレンジで得た経験を将来に生かして社会に貢献する強い意志を持つ
月高生の挑戦を応援します。今年度のチャレンジの内容は…

大阪・関西万博を視察し、国際的なフィールドで活躍する同年代の若者と交流することを目的とした『EXPO2025 大阪・
関西万博』視察・「世界学生起業家アワード」見学』と本校の総合的な探究の時間での取組をとおして知り合った台湾の高校
生と直接出会うことを願い、実際に現地を訪れさらに交流を深めながら台湾と日本の関係性について学ぶことを目的とした
『台湾 Study Tour』でした。これからも積極的な月高生のチャレンジをできる限り応援していきます。

2026年度 第47回同窓会定例総会・懇親会のご案内

当番幹事は 35期 (S62卒)・45期 (H9卒)・55期 (H19卒)・
65期 (H29卒) です

◎2026年9月26日 (土曜日)

◎ホテルライフォート札幌 (札幌市中央区南10条西1丁目1-30)



同窓会懇親会には当番期以外の卒業生の皆さまにもぜひご参加いただき、世代を超えた交流ができれば幸いです。皆さま是非お誘いあわせの上、ご参加ください。また、二次会をそれぞれの同期会やクラス会として設定していただくなどのきっかけにもなりますように。総会・懇親会への出席が増え盛会となるよう役員、当番幹事ともに尽力いたしますので、ご検討のほどよろしくお願いいたします。

北海道札幌月寒高等学校同窓会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は北海道札幌月寒高等学校同窓会と称し、事務局を本校におく。
- 第2条 本会は次の会員をもって構成する。
- (1) 正会員 本校卒業生及び本校に在学したもので役員会において承認されたものとす
る。
- (2) 名誉会員 本校の職員及び旧職員とする。
- 第3条 本会は会員相互の親睦を図り教養を高め、あわせて母校の発展に寄与することを目
的とする。
- 第4条 本会は前条の目的を達成するための次の事項を行う。
- (1) 会員相互の連絡
- (2) レクリエーション
- (3) 会誌及び会員名簿の発行
- (4) 母校の後援
- (4) その他の目的を達成するために必要と認められる活動

第2章 役 員

第5条 本会に次の役員をおく。

- (1) 顧問 若干名 (6) 副幹事長 若干名
- (2) 名誉会長 1 名 (7) 会 計 2 名
- (3) 会 長 1 名 (8) 会計監査 2 名
- (4) 副会長 若干名 (9) 書 記 若干名
- (5) 幹事長 1 名 (10) 幹 事 若干名

第6条 役員の選出は次のとおりとする。

- (1) 名誉会長は本校長を推す。
- (2) 会長、副会長、幹事長、副幹事長及び会計監査は役員会において正会員中より選出し
総会において承認する。
- (3) 書記は会長が委嘱する。
- (4) 幹事は、卒業各期より各クラス1名を選出する。
- (5) 顧問は、会長が委嘱する。ただし少なくとも1名は現職員とする。

第7条 役員の任務は次のとおりとする。

- (1) 会長は、本会を代表し、会務を統轄し役員会を主催する。
- (2) 副会長は会長を補佐し、会長に事故のあるときは、その職務を代行する。
- (3) 会計は、本会の会計をつかさどる。
- (4) 幹事長は、幹事会を主宰する。
- (5) 副幹事長は、幹事長を補佐する。
- (6) 会計監査は、本会の会計を監査する。
- (7) 書記は、本会の庶務をつかさどる。
- 第8条 役員の任務は次のとおりとする。
- (1) 会長、副会長、幹事長、副幹事長及び会計監査の任期は2年間とする。

- (2) 全校に属する役員を除く他の役員の任期は特に定めない。なお、幹事に不都合が生じ
た場合は速やかに後任を選出しなければならない。

第3章 機 関

- 第9条 本会の目的を達成するための次の機関をおく。
- (1) 総 会 (2) 役員会 (3) 幹事会 (4) その他、運営に必要な会
第10条 総会 は本会の最高決議機関である。原則として年1回定例総会を開催する。
第11条 以下のとおり、臨時総会を開催することができる。
(1) 会長が必要と認めた時。
- (2) 幹事の3分の1以上、もしくは正会員の10分の1以上の連署による要求があった場合。
- 第12条 総会において、次のことを行う。
- (1) 会務の報告 (2) 役員改選 (3) 決算報告及び予算案の審議
- (4) 事業計画の審議 (5) その他の必要事項の審議
- 第13条 役員会は、総会に準ずる決議機関として開催する。
- 第14条 役員は次のことを行う。
- (1) 総会提出議案の作成
- ア 事業計画の立案 イ 予算の作成 ウ 役員の選出
- (2) その他会長から委任された事項の審議
- 第15条 幹事会は次のことを行う。
- (1) 会長から委任された事項についての審議
- (2) その他、必要な事項の審議
- 第16条 会長または役員会は、必要と認める機関を設けることができる。
- 第17条 第9条に掲げる機関における議事は、出席正会員の過半数でこれを決する。
可否同数の場合は、議長の決することによる。

第4章 会 計

- 第18条 本会の経費は、会費、寄付金及びその他の収入をもってあてるとする。
- 第19条 本会会費は正会員1名に5,000円とし、入会の時にこれを納入しなければならない。
- 第20条 役員会が必要と認め、さらに総会がこれを承認した場合は臨時に会費を徴収するこ
とができる。
- 第21条 本会の会計年度は、4月1日より翌年の3月31日とする。
- 第22条 会計細則は別に定める。

第5章 慶 弔

第23条 次に該当した場合、15,000円を限度として、慶弔金等を贈る。

- (1) 会則第5条に定める役員が死した場合は、生花などを贈り、弔意を表す。
- (2) 会員または在校生が国家的表彰等を受けた場合は、記念品を贈呈し、慶意を表す。
- (3) 上記の条件に該当しないものについては、役員会で検討する。

附 則

本会則は昭和56年8月23日より施行する。

平成4年8月21日会則一部改正

平成15年10月24日会則一部改正

平成20年10月18日会則一部改正

平成29年10月3日会則一部改正

令和2年11月5日会則一部改正

令和7年5月23日会則一部改正

ご協力ありがとうございました

文化体育後援会（全日制）・後援会（定時制）助成及び郵便協力費にご賛同いただいた方々です。

西城 一翼（7期）	鈴木 勝利（11期）	井筒 和幸（14期）	小林 良子（14期）
笹出由紀子（14期）	佐々木裕二（22期）	濱中 啓江（22期）	南 仁（29期）
島 公紀（33期）	竹内 有美（34期）	漆原 直子（35期）	松村 晃（44期）
上澤 千浩（44期）	岩澤 幸一（44期）	小竹 淳基（55期）	

（R7年2月～R8年1月受付分）

令和7年度 同窓会事業報告

[2024年4月～2025年3月]

年月日	項 目	内 容
4月8日	月寒校入学式(全日制・定時制)	顧問、会長が参列
4月18日	月寒高校同窓会役員会①	今年の役員活動、当番幹事会等について
4月24日	月寒高校同窓会当番幹事会①	第1回目の当番幹事会、顔合わせ、以後の活動確認
5月15日	月寒高校同窓会役員会②	総会資料・全日資料の進捗状況確認
5月23日	月寒高校同窓会総会・当番幹事会②	校会、進捗状況確認、参加者名簿の整理方法説明等
6月20日	月寒高校同窓会当番幹事会③	進捗状況確認、参加者名簿の整理方法等
7月17日	月寒高校同窓会役員会③	大懇親会に向けた印刷物の確認、今後の流れ
7月18日	北海道札幌月寒高等学校評議員会	同窓会長が学校評議員委員として参加
7月26日	月寒高校同窓会当番幹事会④	進捗状況確認、参加者名簿の提出等
8月7日	月寒高校同窓会当番幹事会⑤	大懇親会案内文電送付作業
8月15日	全国大会出場部への支援金目録贈呈	同窓会から支援金を対象部に贈呈
8月22日	月寒高校同窓会当番幹事会⑥	進捗状況確認、参加者名簿の確認等→8/23参加者、広 告の印刷日
9月5日	月寒高校同窓会当番幹事会⑦	参加者の状況、会費打合せ、広告最終版の切り
9月17日	月寒高校同窓会当番幹事会⑧	参加者の確認、卓席決定
9月28日	北海道札幌月寒高等学校 第4回同窓会大懇親会	ホテルフォート札幌(18:00-) 203名参加 当学期34期/44期/45期/46期の幹事で開催
10月16日	月寒高校同窓会役員会④	大懇親会反響、共同部室回収について
10月23日	月寒高校同窓会当番幹事会⑨	大懇親会反響会
11月21日	外部活動共同部室改修検討委員会①	共同部室改修に係る予算、計画等(幹事氏)
11月22日	月寒高校同窓会当番幹事会⑩	当番幹事会の総務会 35名参加
12月1日	月寒活動共同部室改修検討委員会②	共同部室改修の方向性、予算確保等
2月27日	北海道札幌月寒高等学校評議員会	同窓会長が学校評議員委員として参加
2月28日	月寒高校同窓会入会式	幹事長挨拶等、同意会誌「つきさっぶ」,「同意会パン フレット」,「同意会入会証」配布、同意会記念品授与
3月1日	月寒高校卒業式【全日制・定時制】	同窓会長他参列
3月12日	月寒高校同窓会役員会⑤	役員組織、月寒丘ひまわり基金、第46回大懇親会、 同窓会会員への広報、共同部室改修等打合せ
3月19日	当番幹事総任へのお願い	当学期35期、45期、55期、65期 案内文発送

令和7年度 北海道札幌月寒高校同窓会事業計画
(令和7年4月～令和8年3月末)

- 本校同窓会の目的である会員相互の親睦と、母校の発展に寄与する取
組みをするため、当会及び本校の情報発信を行うとともに、当会を精
実に運営する。
(1) 同意会入会式を挙行し、当会の主旨を説明して、新会員(第74期卒
業生)を募る。
(2) 本校及び同意会の情報を掲載する同意会会報「つきさっぶ」第42号
を発行し、広く配布する。(2026.2月予定)
(3) 当会公式ホームページの維持・更新作業に取り組みとともに、通宣、
SNSを活用し、同意会活動を広報する。
(4) 同意会会員名簿の充実を図るとともに、会員名簿データの電子化を
促進する。
また、新会員にGoogleフォーム等のWEB登録を促す。
(5) 当会を維持・発展させるため、新役員を募る。

2 本校同窓会の絆をつなぐ大懇親会の企画運営を行う。

- 大懇親会に、より多くの会員に出席してもらい、絆を深める (2025.
9/27(土))
ア 大懇親会を通して、会員の絆をつなぐとともに、本校の誇りと伝
統を引き継ぐことで、同意会への愛着を図る。
イ 案内範囲の拡大(68歳の幹事期への案内・次期当番幹事期へのは
がき案内等)
ウ 大懇親会運営に係わる会員の絆を深めるため慰労会を開催する。
(2) 大懇親会当番幹事(34期・44期・54期・64期)を招集し、総会への
参加及び大懇親会運営を促し、同意会運営を円滑に行う。
(3) 大懇親会の事業費を補うため、議案書等に掲載する広告販売及び物
販を行う。

3 母校への後援を行う。

- 文化体育後援会(全日制・後援会(定時制)への助成を行う。
(2) 全国大会・国体、またはそれに準じる権威のある大会に出場する在
校生の活動を助成する。また、壮行会に参加し、対象者を応援する。
(3) 「月寒丘ひまわり基金」審議会を主宰し、周知ポスター・申込用紙の
作成・配布及びホームページへの掲載及び選考会を主宰する。
(4) 新会員(卒業生)へ、本校への思い出を刻む記念品を贈呈する。(2026
年2月予定)
(5) 本校外部活動共同部室改修検討委員会に参加し、当該部室再建に寄
与するとともに、募金活動に協力する。

4 その他

当会の目的を達成するため、必要と認められる活動を検討し、行う。

収入の部

令和6年度 会計収支決算書
[令和7年3月31日現在] (単位:円)

科 目	予算額	決算額	増減(△)	摘 要
会 費	1,630,000	1,630,000	0	会員326(全日305+定時21)
文体・郵送助成金	150,000	145,000	△ 5,000	文体郵送金 ¥87,000 会報郵送協力費 ¥58,000
繰 越 金	4,827,019	4,827,019	0	前年度繰越金
雑 収 入	0	2,684	2,684	利息
合 計	6,607,019	6,604,703	△ 2,316	

支出の部

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	増減(△)	摘 要
会費等返金	0	0	0	
通 信 費	450,000	324,764	125,236	幹事会・同意会案内郵送料
記念品代	326,000	340,417	△ 14,417	ステンレスマグカップ
助 成 金	500,000	245,000	255,000	部活動6団体 定時制後援会助成
印刷 費	500,000	487,605	12,395	つきさっぶ№41 入会パンフレット・入会証
広 報 費	100,000	0	100,000	
記念事業費	300,000	0	300,000	
慶弔 費	100,000	0	100,000	
記念事業 積 立 金	500,000	500,000	0	定期預金積立
役員会運営費	120,000	85,296	34,704	レンタルサーバー プリンタインク 会議費
小 計	2,896,000	1,983,082	912,918	
予 備 費	3,711,019	0	3,711,019	
合 計	6,607,019	1,983,082	4,623,937	

[収入決算額] [支出決算額] [繰越金]
¥6,604,703 - ¥1,983,082 = ¥4,621,621

記念事業積立金収支決算書

(単位:円)

前年度繰越金	本年度利息	令和6年度積立金	令和6年度支出	令和6年度現在高
9,992,510	178	500,000	0	10,492,688

会 計 監 査 報 告

令和6年度北海道札幌月寒高等学校同窓会会計について、経理並びにその関係書類
について監査の結果、適正に処理されていることを認めます。
令和7年5月12日

会計監査 野田 靖子

令和7年度 会計収支予算書 (案)

(単位:円)

科 目	7年度予算案	摘 要
会 費	1,640,000	全日312 定時16 @¥5,000
文体・郵送助成金	150,000	
繰 越 金	4,621,621	前年度繰越金
雑 収 入	0	利息
合 計	6,411,621	

支出の部

(単位:円)

科 目	7年度予算案	摘 要
会費等返金	0	
通 信 費	450,000	大懇親会案内郵送費 ¥440,000 幹事会案内郵送費 ¥10,000
記念品代	400,000	卒業記念品 (ステンレスボトル)
助 成 金	500,000	大懇親会案内状 ¥50,000 つきさっぶ41号 ¥435,000
印刷 費	500,000	入会式パンフ ¥15,000
広 報 費	100,000	年度内特別企画行事など
慶弔 費	300,000	
費用等	100,000	
記念事業積立金	0	
役員会運営費	100,000	事務用品費 ¥20,000 会議費 ¥80,000
外部室建設費用補助	3,000,000	※単年度措置
小 計	5,450,000	
予 備 費	961,621	
合 計	6,411,621	

第42号 (16)

名誉会長	三村 素道 (学校長)
顧問	菊池 宥 (2期 元会長)
顧問	佐藤 昭男 (2期 元会長)
顧問	小西 政秀 (3期 元会長)
顧問	荻田 英樹 (副校長)
顧問	石田 毅 (教頭)
顧問	大野 直也 (教頭)
顧問	武田 明 (事務長)
顧問	佐々木明憲 (6期)
顧問	井筒 和幸 (14期 元会長)
顧問	古内 一枝 (14期)
顧問	小竹 知子 (26期)
会長	開発 好博 (21期)
副会長	石破 正樹 (21期)
副会長	佐々木裕二 (22期)
幹事長	駒ヶ嶺智史 (50期)
総務・組織部 部長	横谷 亮 (43期)
総務・組織部 副部長	金山 浩幸 (32期)
事業部 部長	小竹 淳基 (57期)
事業部 副部長	岸本 望 (32期)
広報部 部長	梅原紳一郎 (44期)
広報部 副部長	早瀬健太郎 (49期)
総務・組織部 部員	大浦 充 (30期)
総務・組織部 部員	松倉 利昭 (36期)
会計	濱中 啓江 (22期)
会計	川口 美咲 (31期)
会計監査	野田 靖子 (24期)
事務局長	赤松 貴司 (37期)

2025年5月22日現在

事務局だより

同窓会事業に、母校の文化・体育後援会への助成、同窓会報の発行があります。この事業につきまして下記の事を
お願い申し上げます。

1. 文化体育後援会(全日制)・後援会(定時制)助成金
昭和57年度の総会で決定し、会員の皆様の協賛、協力により母校へ助成しています。
母校の文化・体育面での部活動は、着実に成果をあげて
おります。
ご支援有り難うございます。

2. 同窓会報「つきざつぶ」の配布と原稿募集
幹事の方で同期の会員に配布したい、同期会やクラス会の予定があるので会報が必要であるなど会報の希望がありましたら、同窓会事務局までご連絡下さい。
今後ともご協力お願い申し上げます。

援助金	一口	三千円
郵送協力費	一口	二千円

郵便局で振り込みの場合、払込通知票を使用します。

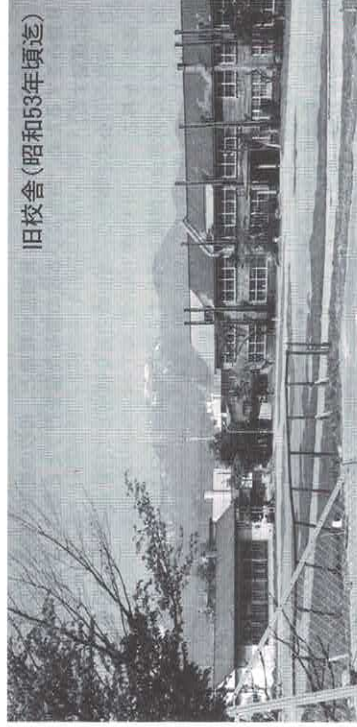
番 号 02720-3-11901

加入者 北海道札幌月寒高等学校同窓会

電話での問い合わせに
「どうぞ、ご連絡さしな

同窓会事務局では、名簿作成等の為の電話での問

い合わせはしておりますませんでご注意ください!!



旧校舍(昭和53年頃迄)

北海道札幌月寒高等学校

同窓会幹事



第74期 (令和8年卒)

【全日制】

一組 鈴木 渉大
三組 海藤陸乃介
五組 佐藤 僚太
七組 櫻田 蒼太

二組	二ツ川佑成
四組	三上功太郎
六組	楯石華菜乃
八組	山中 朔

【定時制】

藤田 琉佑

ふんをもちしく願ひします。

會報編集委員

梅原 紳一郎 畑野 好美

令和七年度教職員の異動

【全日制】

副校長	荻田 英樹 (札幌東高 校より)
教諭	畑 好美 (滝川西高 校より)
教諭	影山 文那 (札幌市東高 校より)
教諭	齊藤 暲 (札幌啓成高 校より)
教諭	加藤 紗耶 (滝川西高 校より)
教諭	水野 博彰 (室蘭清水丘高 校より)

【定時制】

教 頭 大野 直也
(札幌月寒高校全日制より)
教 諭 高田 邦彦
(江別高校より)
教 諭 小坂 井琢也
(新採用)

【無 罪】

事務主任 西村 佐織
(浦河高校より)

主任主事 竹生 知己
(札幌平岡高校より)

【全田薬】

副校長 笹子 孝
教諭 黒木 真
教諭 本田 明弘
教諭 大野 直也
教諭 川村 啓子
教諭 金子 昌枝

【定時制】

教頭	東龍徳	(一)退職
教諭	太田剛夫	(和歌山商業高校)
教諭	和角拓也	(一)退職
給食調理員	小林理絵	(一)退職
給食調理員	竹矢麻美	(一)退職

【無 務】

事務主任 二 丹田志津
(栗山高校へ)
主任主事 三 上 勝
(任用満了)